

令和5年度(2023年度)

長門地域農林水産業・農山漁村きらめきレポート



令和6年(2024年) 9月

長門地域農林水産業・農山漁村振興協議会

目 次

第 1 成長を支える多様な人材や中核経営体の確保・育成

- 【① 地域をけん引する中核経営体の育成と経営基盤の強化】 1
- 【② 「農林業の知と技の拠点」等と連携した農林漁業新規就業者の確保・定着】
. 3
- 【③ 農山漁村女性リーダー・やまぐち農林漁業ステキ女子の育成】 5

第 2 地元農林水産物のさらなる需要拡大

- 【① 地産・地消の取組強化】 6

第 3 需要の変化に対応した持続可能な生産供給体制の確立

- 【① 実需者のニーズに応える農畜産物の結びつき強化・生産拡大】 8
- 【② 需要に応える木材供給力の強化】 10
- 【③ 海洋環境の変化も踏まえた水産資源の管理強化と生産体制の確立】
. 11
- 【④ 安心・安全な農水産物の供給】 11
- 【⑤ 防疫体制の強化】 12
- 【⑥ カーボンニュートラルに貢献する持続可能な農林水産業の推進】
. 13
- 【⑦ 「農林業の知と技の拠点」等と連携したスマート農林水産業の推進】
. 14

第 4 産地の維持・拡大に向けた基盤整備と防災力強化

- 【① 生産性を高める基盤整備】 15
- 【② 鳥獣被害対策の強化】 17
- 【③ やまぐち森林づくり県民税等の活用】 17
- 【④ 農山漁村の持つ多面的機能の維持】 18
- 【⑤ 防災・減災機能の強化】 19

第1 成長を支える多様な人材や中核経営体の確保・育成

募集から技術研修、就業、定着までの一貫した支援体制により、新規就業者の安定的な確保・定着を図るとともに、意欲ある担い手の経営基盤強化に向けた支援や、企業等の新規参入の促進など、多様な担い手の確保・育成を図ります。

【① 地域をけん引する中核経営体の育成と経営基盤の強化】

○ 令和5年度の実組

（農業部）

- ・経営発展を目指す意欲ある担い手に対して、市、農協と連携し、県農業経営・就農支援センターの専門家派遣制度の活用等を通じて、法人化や経営改善等を支援しました。
- ・長門地域の集落営農法人等で働く若手農業者が、将来的な法人経営ビジョンの検討に資するための研修会を開催しました。



専門家派遣を活用した法人化協議



法人若手自主経営研究会による視察

- ・生産者の高齢化や労力不足が課題となっている園芸部会等を対象に農福連携を試行しました。



農福連携による長門ゆずきち収穫

(森林部)

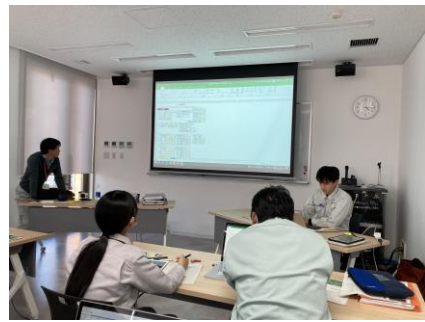
- ・中核経営体の経営力向上を図るため、山口県西部森林組合に対し、中小企業診断士を招いた経営診断（年4回）を行い、「雇用形態の見直し」や「組織の在り方」について、幹部職員との協議等が行われました。
- ・植栽や下刈りなどの労働力を確保する「林業サポーター確保研修」では、4名（うち長門市在住2名）が受講し、2名がサポーターバンクへ登録しました。
- ・各種デジタルデータを高度利用できる人材を育成する「デジタル人材育成研修」では、西部森林組合の職員1名が受講し、QGISやドローン等の活用技術を習得しました。



中核経営体の経営診断



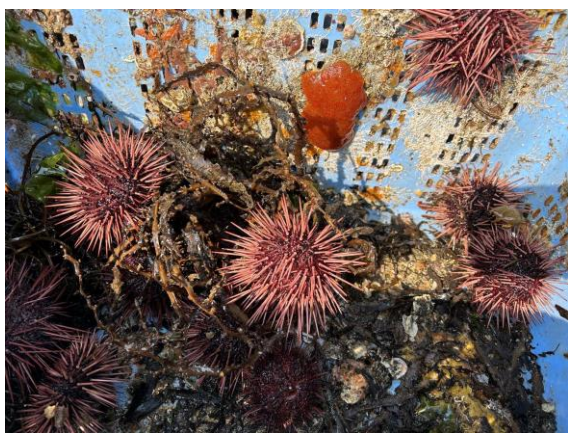
林業サポーター確保研修



デジタル人材育成研修

(水産部)

- ・県漁協大浦支店の漁業者グループが実施した県内初のアカウニ試験養殖に係る取組みを支援したほか、令和4年12月に創設された油谷地区の漁業者グループによる収益性向上に向けた取組みを支援しました。



アカウニ試験養殖



加工ケンサキイカ販売用チラシ

【② 「農林業の知と技の拠点」等と連携した農林漁業新規就業者の確保・定着】

○ 令和5年度の実施

（農業部）

- ・管内で6名の新規就業者を確保しました。
- ・拠点（農業大学校）と長門大津地区農業法人連絡協議会との連携を強化するとともに、新規就業者の受け皿となる法人経営体が、安定的に人材を確保できるしくみづくりに取り組みました。



農大での法人合同説明会



農大生と法人若手の交流会

- ・地元の農高生（大津緑洋高日置校舎）に対して、農業に興味を持ってもらえるよう授業の中で、農業法人等を訪問し、経営概要の説明や農作業体験する機会を設けるとともに、農業大学校への訪問等の取組を支援しました。



農高生の農大訪問

(森林部)

・ 確実な事業遂行のためには、安定した労働力が必要ですが、近年、作業従事者の減少や新規就業者の確保、定着が進まず、労働力対策が急務となっています。

そのため、大津緑洋高等学校 1 年生 30 人に対し、「林業の仕事」等の出前授業を行い、また、就業ガイダンスでは、相談者に対し、森林組合の業務概要等の説明をするなど、各種支援に取り組んだ結果、6 名の新規就業者を確保しました。



高校生を対象とした出前授業



就業ガイダンス

(水産部)

・ 関係機関と連携を密に取り、事前の検討から就業、定着までの継続的なサポートに努めました。本年度は、雇用型 1 名（通地区）の長期研修及び乗組員 1 名（通地区）の OJT 研修を支援しました。また、独立後間もない新規就業者（川尻地区 1 名）の自立化に向けたフォローアップを行いました。



研修開始ヒアリング（雇用型）



新規就業者受入れ協議

【③ 農山漁村女性リーダー・やまぐち農林漁業ステキ女子の育成】

○ 令和5年度の取組

(農業部)

- ・経営参画をめざす新たな女性農林漁業者「やまぐち農林漁業ステキ女子」を育成し、経営発展に向けた新たなチャレンジや実践活動を支援します。
- ・ながとステキ女子の育成に向け、地域特産の長門ゆずきち果汁と鶏肉を活用した新商品開発を支援しました。



新商品開発のための試食会



オープンラボでの簡易成分分析

(水産部)

- ・リーダー研修会や農山村女性との連携交流会のほか、低利用水産物（ガンガゼ）の有効活用に向けた製品開発等の女性部活動を支援しました。



うに飯無料試食会(センザキッチン)



提供したうに飯

第2 地元農林水産物のさらなる需要拡大

長門地域地産・地消推進委員会を核に、生産者、流通・加工関係者、消費者が協働して、地産・地消の取組強化を図るとともに、需要者ニーズに的確に対応した供給体制を整備するなど、地元農林水産物のさらなる需要拡大を図ります。

【① 地産・地消の取組強化】

○ 令和5年度の取組

（企画振興室）

- ・長門市内で開催されたイベント（ながとブルーオーシャンライド、ONSEN ガストロノミーウォーキング）では、地元農産物（長州どり、長門ゆずきち、はなっこりー、ジビエ等）を使ったメニュー提供を行いました。
- ・ほっちゃテレビ、FM アクアにて、長門市内で生産される農林水産物を中心に、市民への情報発信を行いました。
- ・やまぐち食彩店3店舗、販売協力店1店舗を新規開設し、地産・地消推進拠点を拡充しました。販売協力店では試食販売を再開し、地元農産物のPRを図りました。
- ・学校給食関係者との情報交換会や産地見学会の開催により、地元農産物への理解をさらに深め、県下でも高い地元食材利用率となりました。また小学校2校で出前授業を実施しました。
- ・地産・地消料理や商品開発の取組では、地元高校生とやまぐち食彩店のコラボにより、旬の食材を利用した5種類のメニューを開発し、年7回の販売ができました。この売上を基に、高校生が考えた長門の農水産物を紹介する紙芝居を作成し、市内保育園、幼稚園、図書館等に配布しました。

また、ながとステキ女子（農業女子）が発案した長門ゆずきち果汁に漬け込んだ鶏肉をながとラボの協力により「長州どり×長門ゆずきち」として商品化し、発売につなげました。



販売協力店での試食販売



商品開発・メニュー開発

(森林部)

・民間・公共建築物の木造化、内装木質化を推進するため、民間分野では、長門市産材を利用した木造住宅「ながと型住宅」の住宅助成を支援しました。公共建築分野では、木材利用推進会議の開催や木材利用関連の研修会等に参加し、情報収集を行いました。



ながと型住宅

第3 需要の変化に対応した持続可能な生産供給体制の確立

地元農林水産物や加工品に対する需要の変化に的確に対応し、持続可能な生産活動が展開できるよう、スマート技術等の実証による省力化・高品質化栽培技術の普及や、環境負荷の低減に資する新たな技術導入、防疫体制の強化による安心・安全な農水産物の供給対策など、生産供給体制の強化を図ります。

【① 実需者のニーズに応える農畜産物の結びつき強化・生産拡大】

○ 令和5年度の取組

(農業部)

主食用米等の事前契約の拡大による安定的な生産や、麦、大豆、園芸品目の導入による水田フル活用を推進します。

(1) 実需者ニーズに応える麦、大豆等の生産拡大

- ・令和5年産小麦の栽培面積は76haと年々増加していますが、生産する集落営農法人間で品質のばらつきがあるため、全法人を対象に重点指導を行い、産地全体の栽培技術の底上げと小麦品質の高位安定化を支援しました。
- ・大豆の難防除雑草の帰化アサガオ類を防除するために、スマート農業技術等を活用した効率的な除草技術の普及を図りました。
- ・飼料用米の生産振興を図るため、いもち病抵抗性品種の現地実証ほを設置するとともに、増産意欲の醸成を図るための飼料用米収量コンテストの開催を支援しました。



除草剤散布用吊り下げノズル



飼料用米収量コンテスト表彰式

(2) 園芸産地の維持・振興

- ・集落営農法人を中心に「キャベツ」「はなっこりー」「たまねぎ」「にんじん」等の園芸品目が栽培されており、加工・業務用や学校給食用の出荷に向けた生産を支援しました。



加工用キャベツほ場



たまねぎほ場

(畜産部)

【やまぐち和牛】

(1) 生産性向上対策

- ① 畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業（畜産クラスター事業）
 - ・平成 27 年度からの累計 30 機種を整備しました。それらの機械が有効活用されるよう長門大津畜産振興協議会と連携してフォローアップを行いました。
- ② キャトルステーションの支援
 - ・油谷で施設整備されたキャトルステーションの実証を支援しました。

(2) 高品質化対策

- ・やまぐち和牛の一層の高品質化を進めるため、家畜人工授精師をはじめ関係者へ優れた能力を有する県有種雄牛を広く P R しました。

(3) 優良繁殖雌牛の導入や後継牛の保留

- ・農家が長門市の優良繁殖雌牛導入事業を活用する際に、対象牛の評価を行い 12 頭の優良雌牛を導入しました。また、優良後継牛の保留を希望する農家に対しても発育状況や体型等を確認し 3 頭の保留を進めました。

(4) 第 71 回山口県和牛共進会の取組

- ・長門地域の代表として、種牛の部に 10 頭を出品しました。

(5) 「長門市畜産振興計画」の具現化支援

- ・「長門市未来農業創造協議会畜産振興部会」へ参画し、計画具現化の支援を行いました。



第 71 回山口県和牛共進会



キャトルステーション

【長州黒かしわ】

(1) 生産拡大への取組

- ・令和 5 年度の長門市での出荷羽数は 26, 896 羽と県内の 63%を占めています。

(2) 安心・安全な畜産物供給

- ・飼料自給率 60%以上となる長州黒かしわ専用飼料について農林総合技術センターと連携して飼料設計に関する助言等を行いました。本年度は、飼料に混合する大豆の配合可能な上限値と加熱の必要性について調査するとともに、発酵鶏ふんを活用した大豆の低コスト栽培並びに飼料への配合率について意見交換をしました。

(3) ブランド強化に向けた取組

・農林総合技術センターと連携して、長州黒かしわのブランド力向上につながる試験研究（品質を保持する貯蔵方法及び加工方法の研究、香りの特徴や成分の調査等）に取り組みました。



長州黒かしわ



非加熱大豆給与試験

【② 需要に応える木材供給力の強化】

○ 令和5年度の取組

（森林部）

（1）新しい林業に向けた経営モデル実証事業の取組

・木材供給力を高めるには、大型高性能林業機械を活用した効率的な素材生産システムや、スマート林業技術の現場実装に向けた取り組みが必要です。

地域林業の司令塔である（一社）リフォレながとは、全国10箇所の一つとして採択され、ICTハーベスタを活用した低コスト素材生産などの実証試験を行い、効率性、有効性が確認されました。

（2）異業種新規参入促進事業の取組

・建設業等異業種の林業への新規参入を促進する「素材生産実践研修」が長門市日置地区で開催され、長門市内の建設業関係者3名が受講し、高性能林業機械の操作等、素材生産技術を習得しました。



ICTハーベスタによる造材作業



素材生産実践研修

【③ 海洋環境の変化も踏まえた水産資源の管理強化と生産体制の確立】

○ 令和5年度の実施

（水産部）

（1）重要魚種の種苗放流実施・資源管理指導

・キジハタやアワビ、ヒラメをはじめとした需要のある魚種について種苗放流の指導・支援を行いました。

【種苗配布数：キジハタ 23.2 千尾、アワビ 144 千個、アカアマダイ 10 千尾ほか】

（2）沿岸域環境改善支援

・関係機関で連携し、漁業者を中心とした活動組織が行う藻場の保全・再生活動の取組を支援しました。【活動組織（5 組織）：通、長門東、黄波戸、立石、津黄】



種苗放流



藻場再生活動(ウニ駆除)

【④ 安心・安全な農水産物の供給】

○ 令和5年度の実施

（農業部）

・安心・安全な農産物の供給を促進するため、農業生産工程管理（GAP）の導入・実践に向けた支援を行いました。GAP 導入農場への事前指導や GAP 認定機関による審査実施を支援しました。



認定機関による GAP 審査

【⑤ 防疫体制の強化】

○ 令和5年度の取組

(農業部)

・農作物への病虫害の発生や気象災害の状況に応じた的確な指導を行うために、関係機関と連携し、調査ほ場の設置を行うとともに、SNS や広報等を活用して、適時適切な病虫害防除等の情報提供を行いました。

(畜産部)

(1) 防疫マニュアルの見直し

・西部家畜保健衛生所と連携し、高病原性鳥インフルエンザ発生時の現地防疫対策本部マニュアルの見直しを行いました。

(2) 防疫研修会の実施

・職員、関係機関を対象とした高病原性鳥インフルエンザに係る防疫研修会を実施し、発生時の初動防疫を確認しました。



防疫研修会（消毒ポイント）



防疫研修会（動員者実演）

(水産部)

・コイヘルペスウィルス病などの特定疾病発生予防及び蔓延防止対策の徹底を図るとともに、赤潮・貝毒プランクトンの定期的な監視と迅速な情報発信を行いました。

【⑥ カーボンニュートラルに貢献する持続可能な農林水産業の推進】

○ 令和5年度の実施

（農業部）

- ・長門市未来農業創造協議会有機農業等推進部会の活動を支援するとともに、有機農業に取り組む参入企業に係る苗の安定供給や独立就農等の取組を支援しました。



有機栽培用のさつまいも苗生産

（森林部）

- ・長門市有林を核とした主伐－再造林の推進により、26ha の再造林が実施され、森林の若返りが促進されました。



再造林地（長門市有林）

（水産部）

- ・海中の藻場が貯留する CO₂ をクレジット化し、保全活動を継続するため、『海のゆりかごブルーカーボンプロジェクト in センザキ協議会』の組織化に際し、意見・指導を行いました。

【⑦ 「農林業の知と技の拠点」等と連携したスマート農林水産業の推進】

○ 令和5年度取組

(農業部)

- ・長門市未来農業創造協議会スマート農業推進部会と連携し、スマート農業技術の現地実証の設置や実証結果の取りまとめ、普及啓発の取組を支援しました。



水稻のドローン直播技術実証



水位センサー技術

(森林部)

(1) GNSS（衛星測位システム）測量の実装

- ・山口県西部森林組合は、現地測量のツールとして、コンパスやレーザーに加え、新たにGNSSを導入しました。これにより、さらなる効率化、省力化が期待されます。

(2) ICT機器を使用した境界明確化

- ・現地に行かない高齢者や遠方の森林所有者の境界確認を円滑に行うため、アクションカメラを使用した現地ライブ中継による境界明確化作業を実施しました。



GNSS測量の実装



現地とのライブ中継（境界明確化）

第4 産地の維持・拡大に向けた基盤整備と防災力強化

効率的に生産拡大を進めるために不可欠な農林水産業の生産基盤を計画的に整備するとともに、依然として深刻な鳥獣被害防止対策の強化、やまぐち森林づくり県民税の活用等による多面的機能の維持・発揮、近年多発傾向にある大規模な自然災害に備えた防災・減災機能の強化を図ります。

【① 生産性を高める基盤整備】

○ 令和5年度の取組

（農村整備部）

- 高収益作物等の畑作物の導入を図るため、集落営農法人、認定農業者等に対し、水田高機能化事業の誘導等に向けた検討を行ってきました。

水田高機能化対策としては、油谷の本郷地区において、水田高機能化を含む、区画整理工事を実施し、日置の黄波戸口地区において、水田高機能化にかかる暗渠排水工事を実施しました。

【水田高機能化実施 A=7.8ha】



暗渠排水の施工状況
（黄波戸口地区）



暗渠排水の施工状況
（黄波戸口地区）

(森林部)

- ・森林資源の循環利用が期待できる区域において、森林作業道が約 12 km開設され、木材生産基盤の整備が促進されました。

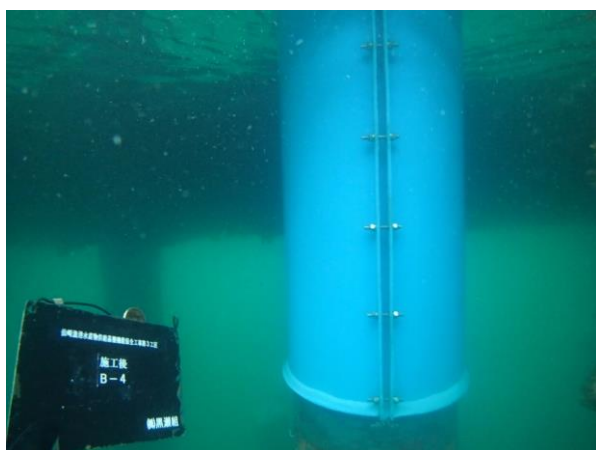


森林作業道の開設

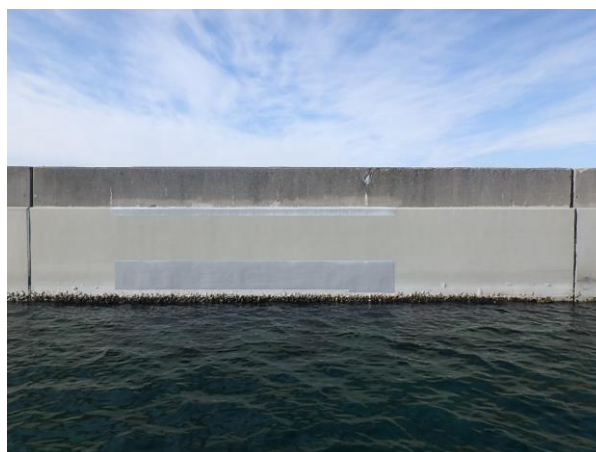
(水産部)

- ・生産基盤の整備：漁港施設の機能を保全するための必要な対策として、防波堤補修等を行い、施設の長寿命化を図りつつ、更新コストの平準化を図りました。

【仙崎漁港：防波堤補修等】



仙崎漁港防波堤鋼管基礎補修



仙崎漁港防波堤補修

【② 鳥獣被害対策の強化】

○ 令和5年度の取組

（企画振興室）

・三隅地域（浅田地区）において獣害防止柵 H=1.8m、L=377m を整備するほか、長門市俵山地区における農作物等へのサル被害を防ぐため、専門知識を有する外部アドバイザーの派遣や鳥獣被害対策研修会を実施しました。



獣害防止柵の整備（浅田地区）



鳥獣被害対策研修会

【③ やまぐち森林づくり県民税等の活用】

○ 令和5年度の取組

（森林部）

・森林整備効果が大きい「森林機能回復事業」と「繁茂竹林整備事業」に取り組み、人工林の強度間伐や繁茂竹林の伐採を実施するなど、荒廃森林の整備を推進しました。

・長門市が実施する「地域が育む豊かな森林づくり推進事業」では、仙崎地区の植栽木保全活動や日置、油谷地区の修景伐採、俵山地区の繁茂竹林伐採等に対して支援を行いました。

・県民税事業の周知活動については、公共施設でのパネル展示等を行うほか、地元メディア（ほっちやテレビ、FMアクア）を通じて、県民税関連事業の実績や事業周知を行いました。



繁茂竹林の伐採



修景伐採

【④ 農山漁村の持つ多面的機能の維持】

○ 令和5年度の取組

（農村整備部）

・「多面的機能支払交付金」に取り組む組織の活動を支援し、地域ぐるみで農地・農業用施設等の保全管理への農地維持支払、資源向上支払（共同活動）を支援しました。

【11 活動組織 A=1,726ha】

・老朽化が進む農業用施設などの長寿命化を図る補修等の取組を行う組織に対し、資源向上支払（長寿命化）の支援を行いました。

【8 活動組織 A=1,622ha】

・組織の広域化・体制強化として、活動組織の広域合併に向けた支援を継続して行っています。



資源向上（農村環境保全活動）



農地維持活動（保全管理）

（畜産部）

・長門市油谷の耕作放棄地において、農林総合技術センター畜産技術部のレンタカウ制度を活用し、山口型放牧に取り組みました。



山口型放牧の様子



油谷耕作放棄地における山口型放牧

【⑤ 防災・減災機能の強化】

○ 令和5年度の取組

（農村整備部）

・ため池の日常的管理及び緊急時の対応について、ため池管理者などに周知等を図るため、ため池点検パトロールを梅雨時期前の5月に実施しました。

また、新規地区1ヶ所の危険ため池のリスク除去（切開）を行い、防災減災の推進を図りました。

【ため池整備 1ヶ所】



ため池点検パトロール
（浴山第1ため池）



ため池の改修
（崩ノ河内第1地区）

（森林部）

・山地災害を未然に防止するため、上ヶ原（油谷地区）、河内前（三隅地区）において、治山ダム（コンクリート谷止工）を整備しました。



上ヶ原（油谷地区）



河内前（三隅地区）

(水産部)

- ・高潮、波浪等による浸水災害を未然に防ぐため、海岸保全施設の新設又は改良を行いました。【仙崎漁港（白潟）：護岸（消波）、設計】
- ・快適で潤いのある漁港環境の形成に向け、漁港海岸を整備しました。
【仙崎（後原）海岸：環境整備】